

2017年度 放課後等デイサービスびいーぼ自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員10名に対して、指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			襖など取り外し、保育室・休憩室と言った目的別場所を設置している。また、長期休暇等で10名を超えた場合は、日課やプログラム内容(外出)等で工夫している。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			保育士・児童指導員を配置し、更に学生スタッフは将来的な人材育成として位置づけ積極的に受け入れている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切であったり、工夫なされているか			○	自立歩行等が困難な利用者には車いすなどの利用が難しい環境である。そのため利用するに当たっては事前に環境的配慮を保護者と確認している
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		○		曜日ごとに組んでいる職員体制の性格上、日常的な業務改善への参画が難しい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者の保育等に関する意向などは登室時に日常的に把握し、職員間で共有している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			公開初年度につき12月中に開示予定、以降は年1回の開示を実施予定。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者評価委員会の設置は行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			行政等から送られてくる研修情報を積極的に活用している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			基本的には日常的に登室時の引継ぎを大切に情報共有しアセスメントを行い作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			子どもの主体性や発達課題を、健康・生活・あそび・集団の柱で評価・課題整理している。
	11	活動プログラムの立案をスタッフで行っているか	○			月1回のカリキュラム会議を専任職員等で実施、各曜日のスタッフに周知確認して実施。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			月1回のカリキュラムでは前月の反省に基づきカリキュラム内容を検討している。またその時は各曜日の子どもや集団から具体化している。
	13	平日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			平日と長期休暇は時間や内容が異なるが、その内容は、季節や行事等に合わせて具体化している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			まずは個人の課題に合わせて、学習やあそびなど設定し、集団活動では、「参加しない自由」を大切にしながら、集団との関わりを進めている。

	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		毎回その日に関わるスタッフ全員で、日案に沿って、利用者状況や課題、日課や行事に向けた内容と役割分担等確認し実施している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		基本的には送迎終了後、スタッフ全員でケース検討を実施。次回の課題確認の共有に努めている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		個別の支援については個人記録を書き、ケース検討では、個人と全体的な内容を話し合っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		6ヶ月毎にまとめと課題確認を行うが、行事等で多少変動している。また日程調整が難しい保護者については個別に対応している
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○		日常生活では、個別の自立課題をpushしながら、「参加しない自由」を大切に、年間を通じて、季節の行事、家族行事、創作活動を行っている。また、そのらの活動を積極的に地域との関わるにつなげている、
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		基本的に保育リーダーである職員が、管理者とケース会議を持ち課題を整理したうえで参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○		町主催の関係者会議に参加。必要に応じて、「学校とい事業所の連絡調整用通信袋」を使い、日常的な情報交流を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		基本的には保護者との連絡調整で済んでおり、必要であれば連絡体制を取る構えでいる。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		町主催の関係者会議に参加。必要に応じて連絡調整できる関係にある。また、町子子育て支援課との連絡調整も行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		福祉圏域で共通使用している「サポートブック」を活用しているが、直接的共有は実績としてない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		地域における「地域療育等支援事業」の一環としての研修には参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		全員ではないが、地域のバリアフリー企画に参加し交流を図っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○		全部ではないが、地域、部門等の専門分野では開所当初から参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		通常の放課後利用では、父母による送迎を基本として頂き、常に子どもに関わる状況について把握し、場合によって個人懇談を実施。

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○	ペアトレーニングと銘打っての企画は行っていないが、家族企画等を通じて交流を図る機会を持っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか		○	運営規定については重点を、支援内容は資料を、利用料については仕組みを伝えている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか		○	子どもの送りの時等、日常的に相談がある場合は、その場で懇談をしていくことを基本にしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	年間の回数は少ないが、家族企画等を通じて交流を図る機会を持っている。また父母の交流会に事業所の部屋を貸したり、地域のデイ事業所合同主催で、サロンなどの交流支援を行っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか		○	以前、不定期利用者にお知らせが届かなかった等の苦情があり、配布体制の改善を行ったが、それ以外は苦情は出ていない。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○	月1回以上のおたよりを発行し、利用希望調整や諸連絡を行い、法人は季刊誌を発行し、取り組みなど関係者に周知している。
	35	個人情報に十分注意しているか		○	文章や画像など注意を払って利用管理している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか		○	直接的な疎通が困難な場合、親戚関係者や子育て支援課など行政機関と連携している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	創立記念行事やその他行事も関係団体や地域に情報発信をして取り組んでいる。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○	新規雇用の場合資料を配布、長期休暇前にも、スタッフ会議によるマニュアル内容の確認を行っている。
非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		○	年1回以上の訓練等を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		○	虐待関連の研修には出来る限りしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○	今までに実際に行ったケースはないが、必要な場合その確認、実施手順は確認している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○	今までに実際に行ったケースはないが、必要な場合その確認、実施手順は確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○	ケース会議等で確認された内容はヒヤリハットに記載し、必ず他の曜日の全スタッフに内容と課題について周知している。